

令和元年度 事業報告

1 当期事業活動の概要

【総括】

当期は、年度当初から高い稼働状況を獲得する中で順調に推移し、近年で最も高い収入稼働率、事業活動収入が見込まれた。

しかし、令和元年未発生「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」により、政府から、令和2年2月26日に「全国的なイベント等について、今後2週間は中止、延期又は規模縮小等の対応を要請する」、3月10日にも「今後10日間程度も自粛を継続する」と表明があり、3月11日には世界保健機関がパンデミックを宣言する中、年度末の2月から催事や会議の中止・延期が相次いだ。

結果、年度全体の稼働状況により、法人化以降2番目に高い事業活動収入、収支差額となるが、次年度は見通しが不確実で厳しい運営が見込まれ、社会・経済の動向を注視し、国等の支援制度の活用や事業活動支出の抑制に努め、状況の変化に的確に対応しながら、経営の安定化を図ることが重要となる。

＜令和元年度 事業活動収入・支出等（㊸法人化以降の推移）＞

年度	事業活動収入額		事業活動支出額		収支差額 (百万円)	稼働率 (%)	利用 件数 (件)
	(百万円)	25年度比	(百万円)	25年度比			
元	313.9	134	236.3	111	77.6	50.9	232
30	304.2	130	227.2	106	76.9	49.0	222
29	327.2	139	244.5	115	82.7	53.2	244
28	309.7	132	241.1	113	68.6	51.0	222
27	301.6	128	256.5	120	45.1	50.3	206
26	283.5	121	253.4	119	30.0	46.8	195
25	234.9	100	213.4	100	21.5	38.9	171

【参考】稼働率 (%) : ㊸35.3 ㊹36.3 ㊺33.4 ㊻32.5 ㊼30.5

【施設の稼働状況】

事業収入の大宗を占める展示場の稼働状況は、大展示場吊り天井の落下防止補強工事により112日間の使用が制限される中、ゴールデンウィークの催事や全国を対象とする大会の獲得などにより、一時は平成31年度（令和元年度）

事業計画の目標とした53%を超える約54.5%の高い収入稼働率が見込まれた。しかし、令和2年2月から催事の中止や延期の事案が相次ぎ、見込まれた稼働から3.6%減少し、結果、年間収入稼働率は50.9%となった。

【事業活動収入】

事業活動収入は、「新型コロナウイルス感染症」の影響により、見込まれた使用料収入から24百万円程度減少する厳しい状況となったが、発生前の順調な稼働状況により前年度から9,747千円増の313,913千円、対前年度比103%と平成25年の法人化以降2番目に高い事業活動収入となった。

【事業活動支出】

事業活動支出は、効率・効果的な支出に努める中、新規利用奨励金や委託料の増などにより、前年度から9,028千円増の236,266千円、対前年度比104%となった。

【公益目的支出】

事業活動支出の内、産業・文化の振興に資する事業の実施や参画・支援を行う公益目的支出は、公益目的支出計画に沿って18,693千円を執行している。

【当期収支差額】

当期の収支差額は77,648千円となり、企業会計の「当期純利益」に相当する「当期一般正味財産増減額」も増となる。

一般正味財産期末残高は、1,229,516千円となり、指定正味財産期末残高263,770千円と合わせ、正味財産期末残高は、1,493,286千円となる。

【施設整備】

京都府による「吊り天井耐震補強工事」が、大展示場において実施され、平成30年度の稲盛ホールから実施されてきた同事業は完工し、施設の安全の向上が図られた。

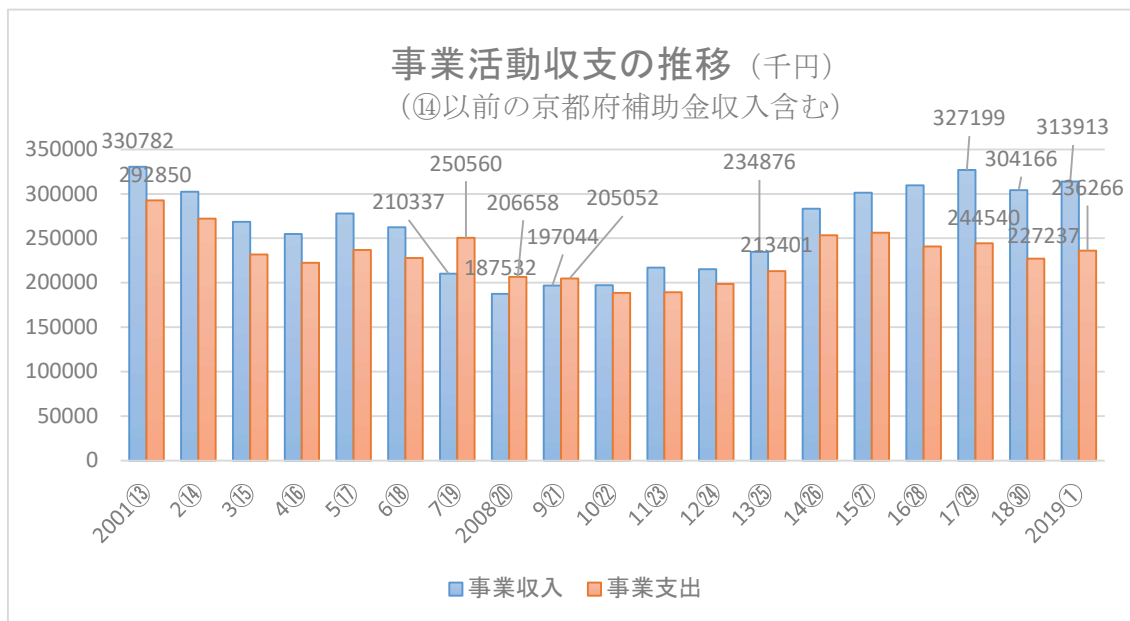
2 事業運営の推移と今後の方向

【事業運営の推移】

会館は、時代の要請、京都経済界の力強い支援によって昭和62年に開館し、以来、大規模な展示や会議等の会場として、京都産業の進展に貢献してきた。

会館運営の事業収入の状況は、昭和62年度から平成5年度までの7年間、対前年度比増を持続したものの、バブル経済崩壊や平成7年の阪神淡路大震災などもあり、平成6年度から15年間、対前年度比減で推移し、リーマンショックの平成20年度には過去最低の状況となり、平成19年度から平成21年度まで収支差額は赤字計上となった。新型インフルエンザ（H1N1）流行の平成21年度には事業収支が赤字ながらも対前年度比微増、平成23年の東日本大震災などの影響があったものの、政府の経済政策など景気拡大基調を背景として順調に推移し、平成29年度には稼働率・使用料収入が過去20年で最高を記録するなど、対前年度比増の事業収入を堅持してきた。平成30年度には大阪府北部地震による天井一部損壊、台風21号等による展示棟屋上防水シート全面剥離・漏水、天井一部崩落、ガラス破損、笠木損壊など、過去にない大きな被害を受けて事業収入は対前年度比減となった。

令和元年度は、「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」により、令和2年2月から催事の中止や延期の事案が相次ぎ、見込まれた稼働率3.6%、使用料収入24百万円程度が減少する厳しい状況となった。



【今後の方向】

当会館の運営は、開館以来、京都はもとより我が国の景気動向や自然災害、感染症の流行など、社会経済情勢の影響を大きく受けながら推移しており、その動向を注視しながら運営に当たることが重要である。

特に、今回のような感染症拡大防止のための緊急事態措置が発出され、当該施設の使用休止の要請によって使用料収入が一定期間皆無となるなど、厳しい事態への確に対応できるよう、平時から有事に備え、公益目的支出計画に沿った事業支出を着実に執行しながらも、「純利益」である「正味財産」を積み上げるなど、強固な基盤を持つ法人経営を構築しておくことが極めて重要である。

また、府民の財産の有効活用を図るという観点に立ち、今日の国内外の社会・経済の情勢を注視しながら、行政や経済界はもとより、京都にある様々な会議・展示機能を持つ機関や宿泊、旅行代理業務などMICE関係機関等と分担と連携を図り、利用者のニーズに応えたサービスの提供を充実し、会館利用の更なる拡大を目指すことが重要である。

さらに、「産業・文化・技術・ひと・もの」の多彩な交流や見本市開催等による経済波及効果、情報の集積・発信という会館の機能強化に加え、安定した収入の確保と適切な支出の執行、これらによって生み出される収益を活用しながら、会館の目的である「京都の産業、文化の振興と発展」に貢献するための事業を展開することが重要である。

3 当期事業活動の内容

(1) 稼働率と事業活動収入

【稼働率】

大展示場・第1・第2展示場の収入稼働率は、前年度から1.9%増加し、平成20年度以降最も高い稼働率であった平成29年度の53.2%に次いで平成28年度に並ぶ稼働率を確保することができている。

収入稼働率 令和元年度実績 50.9% ㊤49.0%

日数稼働率 令和元年度実績 45.5% ㊤43.5%

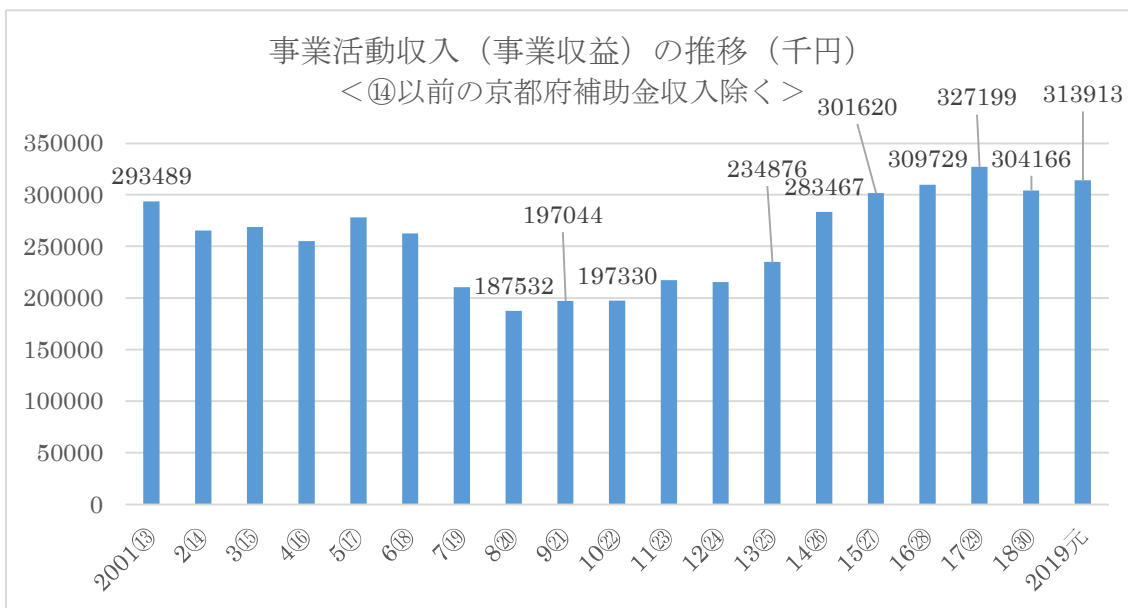
また、稲盛ホール、ラウンジ、会議室など、その他会場の利用状況は、対前年度から増加し、法人化以降最も高い利用となった。

<会場利用の推移 平成20年度～令和元年度>

年度		H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
利用件数	(件)	138	146	151	167	167	171	195	206	222	244	222	232
利用者数	(社)	103	100	106	124	117	121	123	136	141	161	147	150
会場使用料収入	(千円)	131,706	136,048	139,731	155,701	153,213	167,237	204,278	218,426	223,169	233,792	217,957	229,885
展示場使用料収入		117,242	125,125	128,545	139,824	135,698	149,619	185,144	199,286	201,794	210,419	193,695	203,837
その他会場使用料		14,464	10,923	11,186	15,877	17,515	17,618	19,134	19,140	21,375	23,373	24,262	26,048
備品使用料	(千円)	14,628	17,391	17,437	18,555	15,737	21,019	25,356	27,919	27,448	32,284	30,526	26,773
駐車場使用料	(千円)	2,097	2,185	2,224	2,166	2,340	2,117	2,369	2,464	2,589	2,568	2,420	3,125
光熱費・空調使用料	(千円)	20,133	20,447	20,745	24,061	26,045	31,956	38,793	37,706	40,392	41,406	36,983	36,070
収入稼働率	(%)	30.5	32.5	33.4	36.3	35.3	38.9	46.8	50.3	51.0	53.2	49.0	50.9
日数稼働率	(%)	33.2	35.4	36.0	36.5	35.0	38.7	42.5	45.9	45.8	47.7	43.5	45.5
全館来場者数	(人)	390,000	441,000	434,000	468,000	487,000	501,000	558,000	582,000	603,000	581,000	572,000	621,000

【事業活動収入】

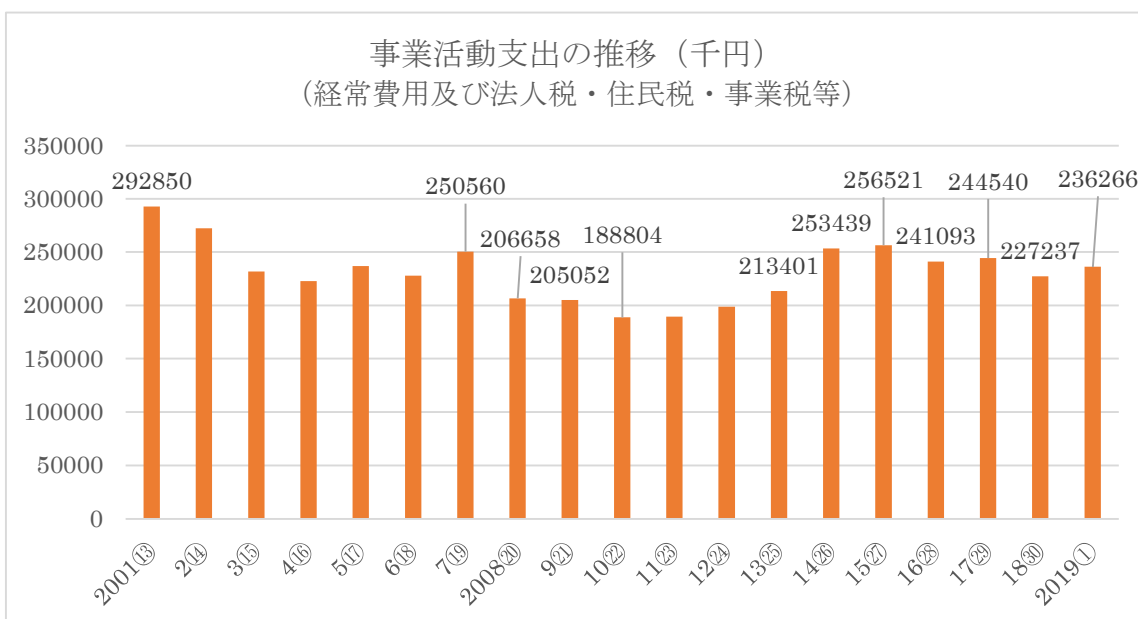
事業活動収入については313,913千円で、収入の内訳を前年度と比較すると、会場使用料が11,927千円の増、備品使用料が3,752千円の減、その他使用料や手数料の増、光熱水費の負担金がやや減となるなど、結果、前年度から9,747千円の増となり、平成13年度以降、また、平成25年の法人化以降、最も高かった平成29年度に次ぐ結果となった。

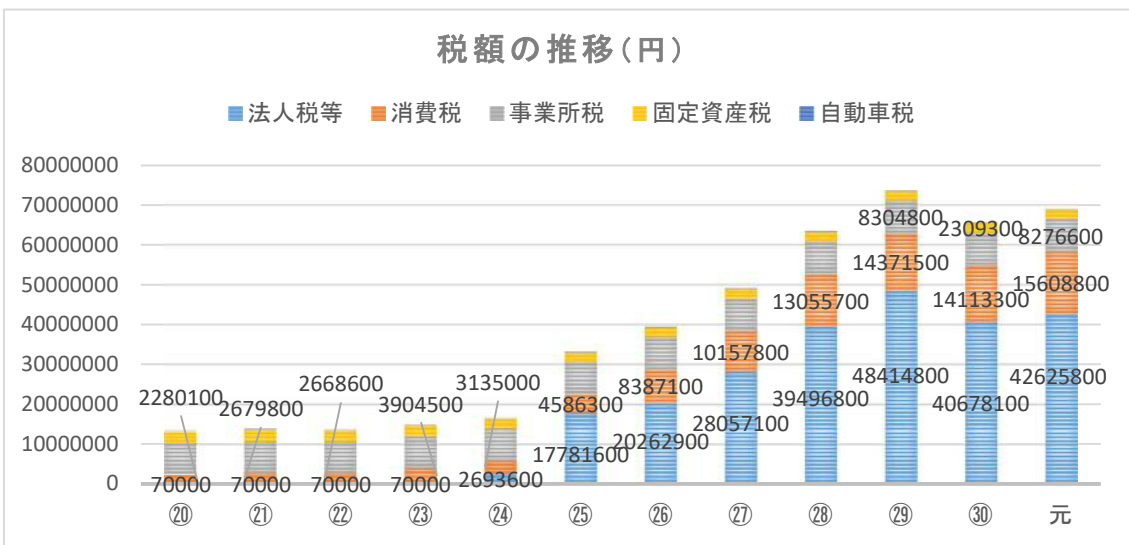
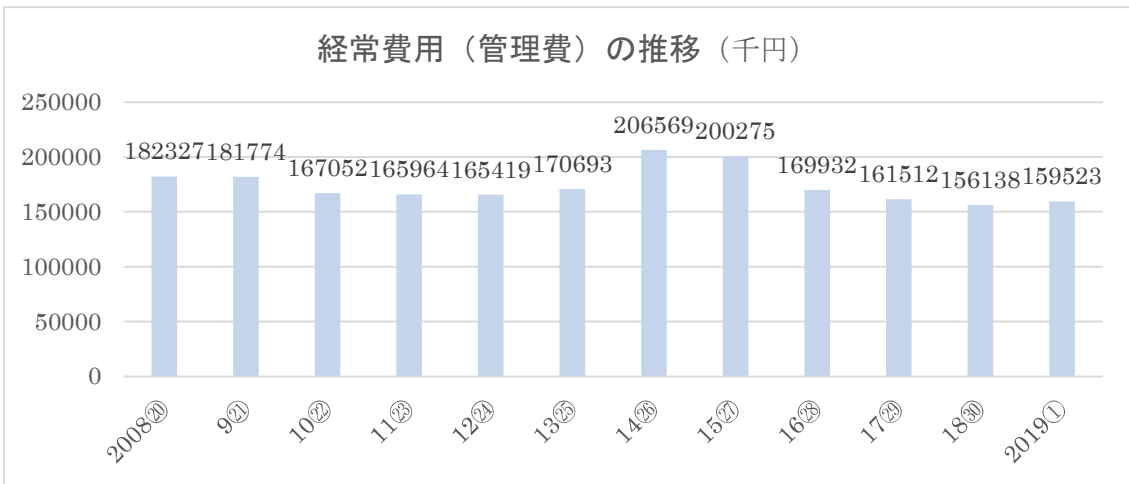
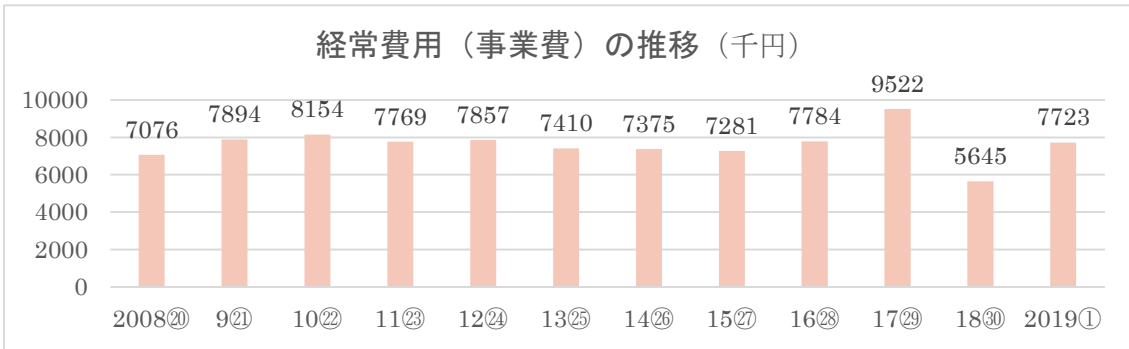


(2) 事業活動支出と施設管理

【事業活動支出】

事業活動支出については、適切な執行、効率・効果的な事業運営を図るなか 236,266千円となった。支出の内訳を前年度と比較すると、事業費は新規や拡大利用の獲得に向けた奨励金の増などにより 2,078 千円増の 7,723 千円、管理費は人件費の減や今日の賃金上昇による委託料の増などにより 3,385 千円増の 159,523 千円、租税公課も 3,565 千円増の 69,020 千円となった。





【施設管理】

施設の管理については、利用者のサービス向上を図る備品の修繕・補充を行うとともに、大展示場搬入口、排煙装置、冷温水器（空調）、シャッターの修繕など、設備等の点検・補修など適切な施設管理に取り組んでいる。

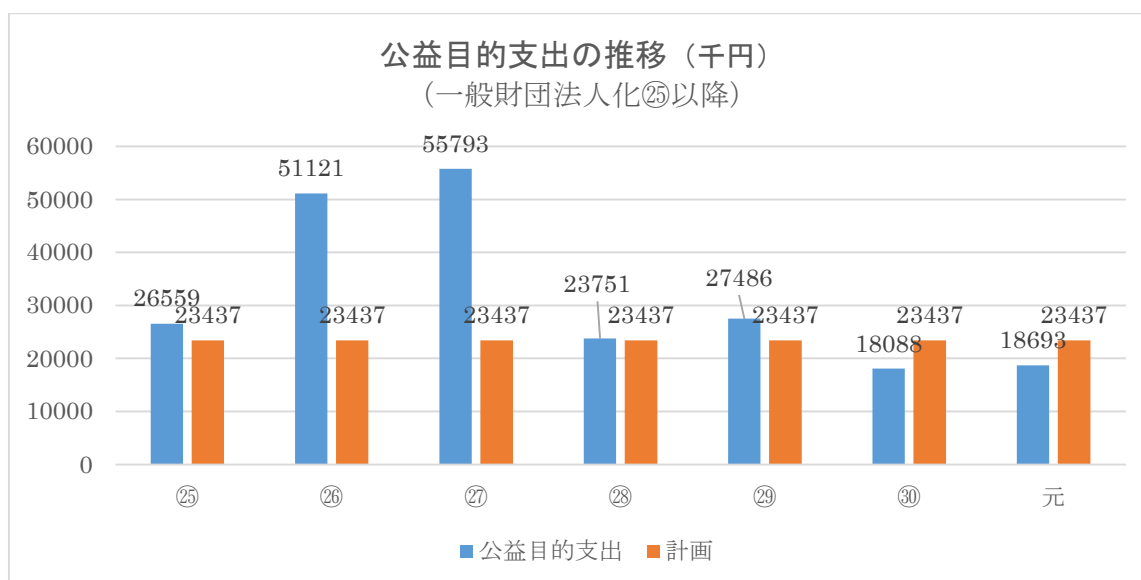
また、利用者の安全確保を図るため、火災・地震対応訓練など防火・防災対策を実施するとともに、消毒液配備や除菌清掃など感染症対策に取り組んでいる。

さらに、昨年度に続き京都府が実施する建築基準法に基づく特定天井（大展示場）の改修についても、現場調整など完工に繋がる協力を行い、併せて、建物設備の老朽化に伴う中長期の施設整備のあり方について、京都府と協議・調整を行っている。

（３）産業・文化の振興と関係機関・地域との連携

【産業・文化振興事業（公益目的支出）】

収益を活用しながら、公益目的支出計画に沿い、当財団の目的である産業・文化の振興に資する事業の実施や支援に取り組み、18,693千円の公益目的支出を執行し、令和元年度末現在の公益目的財産残額は、計画値残額829百万円に対し実績値残額770百万円と計画を上回る進捗状況にある。



（参考）公益目的支出計画

法人が保有する公益目的財産額を公益の目的に支出するとして認可を受けた計画。
当財団の場合、公益目的支出の見込額は毎年度23百万円程度。

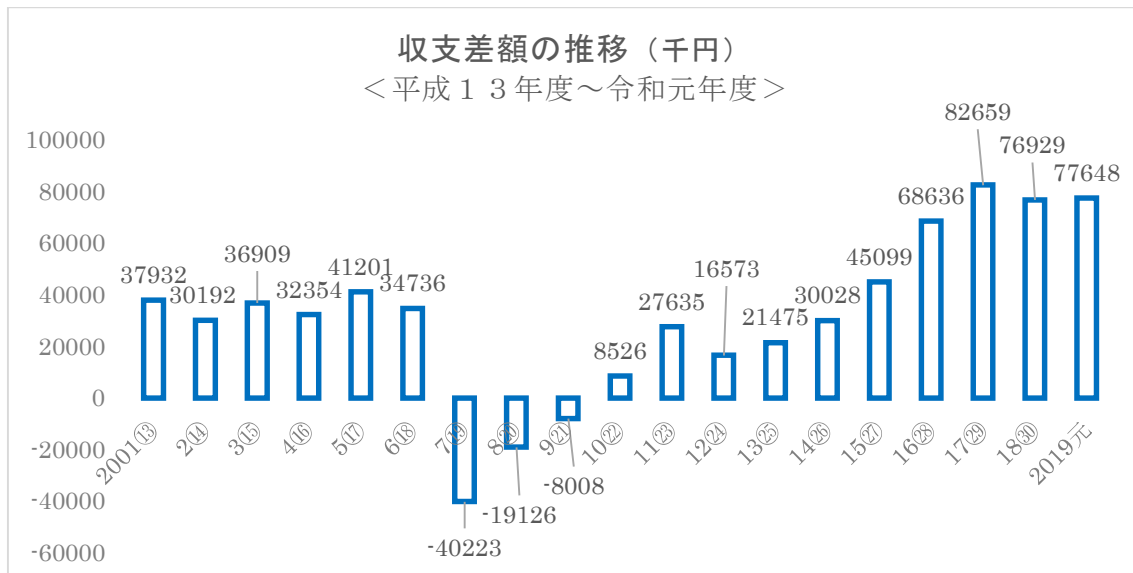
【関係機関や地域との連携】

京都府内外の展示・会議等の機能を有する関係機関と情報の交換を行っている。併せて、まちづくりなど地域の事業に参画し、地域連携に取り組んでいる。

(4) 収支差額（一般正味財産）の確保

事業活動収支差額は77,648千円となり、企業会計の「当期純利益」に相当する「当期一般正味財産増減額」の増に繋げており、今年度のほか、平成25年度の法人化以降、収支差額が7千万円を超える年度は、平成29年度の約83百万円、平成30年度の約77百万円である。

収支差額の推移は、駐車場用地等を取得した平成6年度に単年度赤字となったが、以降は黒字の状況を維持してきた。しかし、世界や我が国の経済が厳しい状況にあった平成19年度から平成21年度まで事業収入の減少により赤字となった。平成22年度には黒字を回復し、現在まで推移している。なお、開館当初から平成14年度までは、京都府の補助金が約37百万円から87百万円支給されており、それを除いた実質の収支差額が70百万円を超える年度は、平成2年度の128百万円、3年度の106百万円、5年度の74百万円である。



4 当期主要事業の実施状況

(1) 評議員会・理事会・監事監査の実施

- ① 監事監査（令和元年5月29日実施）
 - ・平成30年度事業及び決算の審査等

- ② 第1回理事会（令和元年6月10日開催）
 - ・第1号議案 事務局長の任免承認の件
 - ・第2号議案 平成30年度事業報告及び決算の承認の件
 - ・第3号議案 定時評議員会の招集及び議案の件

- ③ 定時評議員会（令和元年6月26日開催）
 - ・第1号議案 平成30年度事業報告及び決算の承認の件
 - ・第2号議案 理事の選任の件
 - ・第3号議案 評議員の選任の件

- ④ 第2回理事会（令和元年6月26日書面決議）
 - ・理事長・専務理事・常務理事の選定

- ⑤ 第3回理事会（令和2年3月16日開催）
 - ・報告 1 新型コロナウイルス感染症に係る影響と対策
 - ・報告 2 令和元年度の運営状況（中間報告）
 - ・第1号議案 令和元年度収支予算一部補正の件
 - ・第2号議案 令和2年度事業計画及び収支予算の件

(2) 大展示場吊り天井改修事業（京都府実施事業）

建築基準法に基づく特定天井（高さ6m以上、面積200㎡超）の落下を防止し安全確保を図るため、京都府による大展示場の吊り天井ボルト等金具補強工事（事業費56,847千円）が実施された。なお、平成30年度に稲盛ホールの補強工事（事業費：6,886千円）も行われ、これにより、この事業は完工する。

5 当期事業活動の実施状況

(1) 展示会場等利用獲得と拡大の取り組み

① 利用者の要請・利用状況に応じたサービスの提供

- ・ 展示・会議利用者の希望に応じた日時の確保・調整
- ・ 民間企業駐車場借り上げなど会館利用者駐車場の確保・調整
- ・ 要請に対応した備品等の貸し出し
- ・ 必要な備品の補充・補修

稲盛ホール：手摺付きステージタラップ（394千円）配備など

- ・ 館内飲食提供事業者等と連携・調整した利用者サービスの提供
- ・ バス等運行事業者への会館利用状況の情報提供と運行の調整

② 利用者ニーズの把握と新規利用の獲得・拡大

- ・ 利用者ニーズの把握と満足度調査（アンケート実施）

『令和元年度利用者アンケート結果（109件中82件75.2%回収）』

- ① 満足度 →非常に満足 25.6%、満足 56.1%
- ② 会場選択理由→希望の広さ確保 62件 搬出入が便利 39件
希望の日程確保 29件 料金が手頃 28件
駐車場が無料 23件 など
- ③ 今後利用予定→申込済・仮予約等 80.5%

・ 奨励金制度を活かした新規利用の獲得

年度	H20 (2008)	H21 (2009)	H22 (2010)	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)
新規催事誘致等件数	16	20	17	26	16	25	25	24	23	26	17	33
大展・大展+	5	7	5	11	8	8	9	8	13	12	8	12
1展/2展	11	13	12	15	8	17	16	16	10	14	9	21
新規催事誘致等奨励による 展示場使用料収入 (千円)	13,817	12,154	14,339	24,765	19,100	19,628	40,756	26,247	38,407	24,547	16,329	47,855
大展・大展+	10,400	9,176	10,340	20,628	15,705	13,434	32,268	17,538	34,693	19,990	13,573	33,390
1展/2展	3,417	2,978	3,999	4,137	3,395	6,194	8,488	8,709	3,714	4,557	2,756	14,465

<参考> 「新規催事誘致等奨励事業」（平成20年度から実施）

- a 初めて展示場利用する催事や過去3年以上開催実績のない催事
(奨励金：基本会場使用料の10%還元)
- b 利用日数や利用面積の増など利用が拡大した催事
(奨励金：基本会場使用料増額分の5%還元)

③ 会館情報の効果的な提供

- ・ホームページによる会館情報、利用情報の提供
- ・「京都市市町村共同公共施設案内予約システム」による会館情報、利用状況情報の提供
- ・会館利用企業等への情報提供など利用促進の訪問

(2) 効率的な事業運営と施設の適切な管理

① 効率的な事業運営

- ・効率・効果的な事業運営や事業費・管理費等の適正執行
- ・適切な電力供給事業者との契約による経費の最適化
令和元年度供給：関西電力（株）
（参考）平成30年度供給：エフビットコミュニケーションズ（株）
- ・適切なガス供給事業者との契約による経費の最適化
平成31年1月からの供給：関西電力（株）（関電ガス）
（参考）平成30年12月までの供給：大阪瓦斯（株）
- ・太陽光発電：交流電力量 8,236.61kw
（電力料金相当額：@20円/kw×交流電力量=164,732円）
- ・廃棄物の適正な分別や減量化

② 新型コロナウイルス感染症対策

- ・国、京都府の注意喚起等を掲示（令和2年1月24日から）
- ・アルコール消毒液の配備（令和2年1月24日から）
- ・除菌清掃の実施（令和2年2月4日から）
- ・催事主催者へ入場規制、入場者連絡先の把握、検温、消毒液配備、「密集・密閉・密接」の回避を要請

③ 施設と利用者の安全を確保する防災等危機管理

- ・初動対応・避難誘導など防火・防災訓練等の実施
第1回自衛消防訓練（12/2）第2回自衛消防訓練（1/30）
- ・防火・防災優良認定事業所（平成31年1月23日から令和4年1月23日まで）としての適切運用
- ・設置カメラ（16台）の運用等による催事状況確認と防犯・防災対策
- ・消防・防災訓練等へ参加
伏見防火協会総会（5/24）事業所防火防災セミナー（8/22）
自衛消防業務新規講習（8/23）防火管理・防災管理講習（6/13）

14) 伏見自衛消防隊訓練大会(10/17) 普通救命講習(12/6)

④ 施設の適正な管理と改修

- ・大規模改修・小規模修繕等に係る設置者との協議
- ・施設・設備の適切な点検と必要な箇所の修繕の実施
 - 大展示場搬入口金属アングル等修繕 (265千円)
 - 排煙装置開閉不具合修繕 (254千円)
 - 冷温水器(空調) 排水管漏れ修繕 (242千円)
 - 第2展示場シャッター作動不良修繕 (208千円)
 - 稲盛ホール舞台照明調光卓修繕 (357千円)
 - 非常用発電機オイル交換 (231千円) など

(3) 産業・文化の振興と関係機関や地域との連携・協力

① 産業・文化振興事業(公益目的支出計画)の実施

ア 稲盛ホール事業(自主事業)

(財団負担:稲盛ホール等無料提供)

- ・目的:地域文化の振興と次代を担う中学生の育成を図る
- ・催事名:京都パルスプラザコンサート2020
- ・開催日:令和2年2月9日(日)
- ・主催:京都パルスプラザコンサート実行委員会、
(一財)京都府総合見本市会館
※企業等からの協賛金 250千円(楽器運搬等に費消)

イ 共催事業(負担金支出 計3,685千円)

【伏見ふれあいプラザ2019】

(財団:協賛 負担金 150千円)

- ・開催日:令和元年9月1日(日)
- ・主催:伏見ふれあいプラザ実行委員会(京都市)

【SKYふれあいフェスティバル2019】

(財団:共催 負担金 800千円)

- ・開催日:令和元年9月14日(土)・15日(日)
- ・主催:京都府・(公財)京都SKYセンター・
(福)京都府社会福祉協議会・京都新聞

【京都ものづくりフェア2019】

(財団:特別協賛 負担金 1,000千円)

- ・開催日:令和元年11月9日(土)・10日(日)

- ・主 催：京都ものづくりフェア実行委員会（京都府・京都市・京都府職業能力開発協会ほか）

【京都ビジネス交流フェア2020】

- （財団：共催 負担金 1,600千円）
- ・開催日：令和2年2月13日（木）・14日（金）
- ・主 催：京都府・（公財）京都産業21

【京都サンガF. C. 2020チケットパートナー】

- （財団：協賛 負担金 135千円）
- ・クラブによる地域活性化やスポーツ文化振興等の活動にチケットパートナーとして支援

ウ 建物・設備の主な修繕（実施事業等会計）（再掲）

- ・大展示場搬入口金属アングル等修繕（265千円）
- ・排煙装置開閉不具合修繕（254千円）
- ・冷温水器（空調）排水管漏れ修繕（242千円）
- ・第2展示場シャッター作動不良修繕（208千円）
- ・稲盛ホール舞台照明調光卓修繕（357千円）
- ・非常用発電機オイル交換（231千円）など

② 行政や会議・展示場関係機関との連携

- ・府内の行政機関や観光・コンベンション関係機関の取り組みに参画・出席
 らくなん進都整備推進協議会総会(5/10)伏見観光協会総会(5/27)
 京都府観光連盟総会(6/13)京都南部ビジネスサロン講演会(7/4)
 ふしみ人権の集い(2/22)など
- ・「全国展示場連絡協議会」への参画と情報交換の実施
 全国展示場連絡協議会総会(4/25)同実務担当者会議(10/31~11/1)
 同ブロック会議(12/17)

③ 地域との連携

- ・油小路通美化活動など地域活動への参加
- ・地域コミュニティ活動への参画と協力
- ・イルミネーション点灯による防犯も含めたまちづくりへの貢献